

令和5年度広島市献血推進協議会 会議要旨

1 開催日時

令和6年2月2日（金）14時00分から15時00分まで

2 開催場所

オンライン及び広島市役所本庁舎14階第7会議室

3 出席者等（委員23名中20名出席）

・委員（20名）

松井会長、鉄村副会長、杉本副会長、岡田委員、坂井委員、麻奥委員、大原委員、柳委員、門脇委員、佐々木委員、荒木委員、沖委員、吉澤委員、辻委員、桑野委員、月村委員、久保委員、石橋委員、大岡委員、益田委員

・幹事（3名）

岩崎保健医療局長、加賀谷保健部次長（兼）市立病院担当部長、小林医療政策課長

・オブザーバー（4名）

広島県薬務課中川主査、沖野嘱託員

広島県赤十字血液センター事業推進部献血推進課 宇佐川課長、佐々井係長

・事務局職員（2名）

・傍聴者（0名）

計 29名

4 会議要旨

(1) 議事1 令和5年度 献血推進事業の実施状況について（報告）

説明者：小林医療政策課長

(2) 議事2 令和6年度 献血推進事業計画（案）について

説明者：小林医療政策課長

(3) 議事3 その他

①「広島県の献血状況」②「令和5年度広島県献血推進計画に対する実施状況」

説明者：岡田委員（広島県健康福祉局薬務課長）

③ 献血事業の現状と課題

説明者：広島県赤十字血液センター 佐々井係長

【質疑応答等】

（麻奥委員）

広島市献血推進協議会の皆様、日頃より献血推進に御尽力いただき、誠にありがとうございます。おかげ様で、令和5年度も今のところ、献血必要量を確保することができています。

しかし、当センターの佐々井が説明しましたように、献血者の多くが50歳代から60歳代であり、それも繰り返し献血していただくことで賄われているのが実情です。若年層の新規献血者の確保は急務です。

広島県は、かつては有数の献血県でした。しかしながら、最近は平均値を少し上回る程度です。先日、広島県の若い世代の流出が多いということが話題になりましたが、それでもまだ若

い世代が多い県であると私は考えています。とりわけ、広島市は中四国の中心都市として、若い世代を多く抱えています。

献血者の減少は、若い世代の流出というより、むしろ若い世代の献血への関心が薄れていることが原因だと思われます。

血液センターとしましても、様々なメディアやSNS等を通じて献血の啓発に努めていますが、やはり献血はお互いに助け合う共助という行為ですから、人と人とのつながりを感じる推進活動が肝要だと思います。

その点からも献血推進協議会は、献血活動の基盤となり、協議会の皆様を通じた献血活動が最も力になるものと考えています。

日本の医療は、医療従事者だけが支えているものではありません。特に、輸血に関しては、市民の皆様のボランティアで支えています。どうかより一層の御尽力をお願い申し上げます。